

研究目標

バイオデザインアプローチに基づき、Smart Eye Camera(SEC)を活用した新しい眼科診療モデルをベトナムで開発し、実用化にまでつなげることによって、これまで眼科医療にアクセスできないまま白内障などの眼科疾患によって失明・視覚障害に陥っている貧困層の患者を炙り出し、彼らを適切な治療につなげる事で、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの促進・普及」「NTDをはじめとした感染症対策」に寄与するものである。

研究成果

ベトナムの17の医療機関を対象に実施したニーズ探索の結果、コミットする12のニーズステートメント（NS）を抽出し、それに基づいたコンセプト開発を行い、開発する医療機器の試作品を製作。試作品のユーザビリティテストのフィードバックを踏まえ、ハードウェア・ソフトウェアともにデザイン・機能を改良。ベトナムでの医療機器登録も完了し、製造面・事業面での体制整備も行った。2023年10月よりベトナムでの販売開始。

プロジェクト期間、COVID-19でベトナムがロックダウンしている間にアフリカでの実証を行い、ケニア・ナイジェリア・モザンビークなどのアフリカ各国でも実証を行った。ケニアでは医療機器登録済。

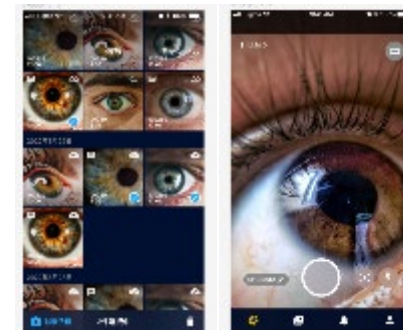
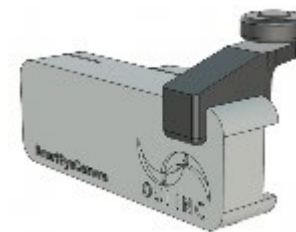
今後の展望

販売を行いながらユーザーからのフィードバックを継続して収集。現地眼科医と連携して、成果品のユースケースを積み重ね、包摂的な眼科医療を実現するモデルを継続して構築していく。

株式会社OUIが発明・開発したSECはiPhoneアタッチメント型医療機器であり、iPhoneに接続して眼科診察をどこでも/安価に/誰でも簡単に可能とした画期的な発明である。

ベトナムでのニーズ探索結果とユーザビリティテストのフィードバックを踏まえ、ハードウェア及びSECを活用した遠隔眼科医療を実現するための機能を実装したアプリケーションのデザイン・機能を改良。ベトナムでの医療機器登録も完了し、本事業終了後の2023年10月より販売開始。

アフリカでは、本事業成果の横展開も意識しながら、ケニア・ナイジェリア・モザンビーク、カメルーン、ギニア、チュニジア、ウガンダ、マラウイなど、各国で実証を継続しながら事業機会を継続探索中。



ペイン > 高い周産期死亡率

ソリューション > モバイル胎児モニター

2,000,000 年間死産数

140,000,000 年間出産数



リソース不足
緊急対応が多い



医療アクセス格差
訴訟のリスク



私たちの実績

カバレッジ 2023年12月

- 日本 : 140病院
- タイ 34病院
- ブータン : 80病院

医療機器としての認証

日本、タイ、フィリピン、インドネシア、ケニアなど

Melody

周産期

e-Health プラットフォーム

>なぜタンザニアなのか

- 1) タンザニアの周産期死亡率は高い
- 2) 日本の周産期医療の技術は高い



Melody International



周産期死亡低減を目指したモバイル型SNS連動胎児モニターの開発（タンザニア）

メロディ・インターナショナル株式会社 代表取締役 尾形 優子

（研究期間： 令和4年度～令和6年度）

研究目標

- タンザニアの周産期死亡率が高いのはなぜか？日本の周産期医療の技術（胎児モニタを含む）でそれが解決するのか？タンザニアの医療従事者へのインタビューや医療現場の観察、妊産婦等へのインタビューを通して、真のニーズを発掘し、そのニーズを定性的、定量的に把握し、周産期死亡低減の解決策を探る。

研究成果

- タンザニアでは、妊婦健診に携わる医療従事者のほとんどが分娩監視装置を認知しておらず、胎児モニタリングの必要性を感じている医師等は限られている。
- 公立病院の妊婦健診は、少ないスタッフと多くの妊婦で恒常的に混雑しており、きめ細やかなアセスメント等が困難な状態である。
- 費用や通院負担の問題等により、妊婦健診受診を控えるケースもあり、受診率が低い。

今後の展望

- 周産期死亡につながる妊娠期のリスクを早期発見をするための体制構築
- 現地のニーズに適う『モバイル型SNS連動胎児モニター』を開発し、令和6年度に医療機器承認を取得

⇒ 周産期死亡の低減を目指す

【メロディ・インターナショナル】
分娩監視装置 iCTG
いつでもどこでも
胎児モニタリングが可能に！

【広大新福研究室】
看護・助産の視点から
タンザニアにおける妊婦
健診の改善のため、母
子保健研究を続ける

【キャストリア】
助産師教育アプリ、
電子母子手帳と助産
師と妊産婦のSNS機
能を持つアプリを開発

